

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第124号)

新館紹介—高梁市図書館

高梁市は岡山県の北西部に位置する人口3万2千人の街です。高齢化や人口流出という日本の地方のどこにでもある課題が、この市にもあります。そこで、高梁市の魅力を発信するとともに、市民の皆様の福祉・生活文化のさらなる向上に資するための施設の一つとして、高梁市図書館が平成29年2月4日にオープンしました。

市民の皆様一人ひとりが光り輝き、生き甲斐が見出せる図書館にしていけるよう日々努力をしています。また、この街には、多くの歴史上の人物を育んだ風土や、古くからの街並みや脈々と受け継がれてきた志が残っています。その高梁の歴史を残し、将来を担う人物を育み、街を元気にしていく『未来につなぐ図書館』をコンセプトに、様々な活動を通して市民が集う、親しみを感じる今までにない公共施設を目指して運営しています。

特徴としては、まずJR備中高梁駅に併設された施設で、改札を出てすぐの入口にテラスがあり、待合所としても利用されていることです。2つ目は、年中無休365日開館していて、朝9時から夜9時まで開館しています。3つ目は、館内の座席数が321席あることです。思い思いにゆっくり過ごせ、長時間滞在できる図書館を実現しています。また、2階エントランス部分では、観光案内所(指定管理業務)と物産販売(民業)を行っています。全国的にも注目が集まる天空の山城『備中松山城』に来られる観光のお客様にも図書館を利用いただき、高梁の歴史を深く学んでいただきたいということで、館内には高梁を感じられる仕掛けを散りばめてい

ます(例:備中神楽面の展示、吹屋のベンガラを使ったカフェカウンター、高梁川の高瀬舟のオブジェ、山々と自然を表す山型の棚等々)。4つ目は、高梁市中心部だけでなく、広い市内全域でも図書館サービスが受けられるよう移動図書館サービスを市内30カ所、月2回行っていることです。買物が不便な地域もあるため、本に加えてパンや日用品の販売も行う、全国初の運用も開始しました。地域の皆様が集える機会づくりや、今後は見守り隊の役割もしていきます。5つ目は、高梁川流域の図書館(新見・総社・倉敷・井原・浅口・笠岡・早島・矢掛・里庄)と県立図書館での本の返却ができ、高梁市外の方の貸出・返却も可能なことです。最後に、様々なイベントを通して、利用者の皆様が『多くのきっかけと出会う(誇り・継承・挑戦・交流・協力)』を目指し、毎月様々な企画実践をしていることです。実践事例としては、旅行英会話・親子バリスタ・梅シロップづくり・ヨガ・講演会などです。

市民の皆様とともに、成長し続けたいと思っています。

(高梁市図書館 館長 藤井 勇)



[3階閲覧室]

総社市図書館リニューアルしました！

総社市図書館は平成28年3月にリニューアルオープンしました。エレベーターを新設したのを機に、子ども向けの本を2階に移し、大人と子どもの利用フロアを分離しました。1階には一般利用者向けの本を集め、「読書室」「雑誌コーナー」を設け、ゆったりと本が読めるスペースを確保しました。2階には授乳ができる「赤ちゃんの駅」や親子でゆっくり絵本が読める「えほんのもり」などを集めた児童フロアをつくりました。

リニューアルから1年が経ち、

土日ともなると、親子連れの姿がぐんと増えにぎやかになります。「お父さん。こっちこっち、ちっちゃいおへや行こー。」親子で本を選んだり、本を読み聞かせてもらったり、思い思いに本の世界に入り

込んでくつろいでいる姿を目にします。カウンターが1階と2階に分かれ、職

員の負担は増しましたが、イクメンの来館増加など、分かれてみて初めて感じることも多くありました。

これからも、市民から親しまれ、人が集う図書館をめざして、サービスの向上に努めていきたいと考えています。

(総社市図書館 西口早苗)

理大図書館2016リニューアル

岡山理科大学は、学生数約6,300名、教員数約300名の大学です。既存の理工系学部に加え近年教育学部・経営学部の人文・社会科学系学部が開設されています。

これら新学部の開設に合わせて、新たにA1号館が建設され、その4階に図書館が設けられることとなりました。新館建設のコンセプトとしては、【ラーニングコモンズを設ける】【長時間滞在できるよう食事が可能なラウンジを設ける】【パソコンが使えるスペースを増やす】【無線LANで館内どこでもインターネットにつながる】【個人机を増やす】【静寂スペースとしゃべっても良いスペースを分ける】などが挙げられ、いずれも実現することができました。

入館者数を2015年と2016年で比べると全体で約1.5倍、中心であったA2号館図書館と新たに中心となったA1号館とを比べると約2倍に増え、新しい図書館は、学生たちに好評のようです。アンケートによると、新しく・明るく・きれいであること、ラーニングコモンズのほかに、パソコンの使える1人掛け席45席や、ラウンジなど色々なスペースがあることなどが好評の理由のようでした。

また、長年希望の出ていた小説のある旧10号館の夜間開館については、資料をA2号館図書館に移設したことにより、午後8時45分まで利用できるようになりました。(実は図書館は、A1・A2・C2号館の3つに分かれています。)

岡山理科大学図書館は、学外に解放されており、一般の方や高校生でも利用できます。是非一度新しい理大図書館に来てみてください。

(岡山理科大学図書館 林 成吾)



[こどもの部屋]



[ラウンジの様子]



[読み聞かせ]

ブックハンティングの取組

本学では平成 26 年度秋より、ブックハンティングを始め、今年度で 4 年目となりました。毎年、夏と秋に 2 回ずつ行っており、ようやく学生さんにも浸透した行事となりつつあります。本学での取組事例を紹介いたします。

ブックハンティングとは、学生が直接書店に赴き、好きな本を選べるイベントです。選んだ本は図書館の書架に並び、選んだ学生は優先的に貸出もでき、選書額の範囲なら何冊でも選ぶことができます。

この取組は、学生協働(図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担う活動)の一環で、学生の主体的な学びへのきっかけとなることを期待して行っているものです。

ブックハンティングの流れ

1. 書店にて学生が選書
2. 図書館が重複等をチェックし、本を購入
3. 図書館が受入・目録・分類等登録作業
4. 学生が POP を作成
5. 新着図書コーナーに展示
6. 貸出を開始

利用者の視点で選書をしますが、次の事に留意するよう注意しています。また、選んだ全ての本が購入されるわけではありません。

選ぶときのポイント

- ・ 図書館に置いて欲しい
 - ・ 学習、卒業研究、就職活動に必要
 - ・ 講義、レポート作成に役立てたい
- 選んでも購入の対象とならないもの
- ・ 既に図書館に置いてある本
 - ・ 雑誌、漫画、携帯小説、DVD

残念ながら購入できない場合は学生に理由を説

明して納得してもらっています。

毎回、事前に説明会を行い、無駄なく選書するためのポイントを説明しています。今年度は、説明も図書館サポーターの学生さんにお願ひしました。上位学年の学生から説明があると、自分達が主体となる行事であるという意識が生まれるようです。

参加する学生は、購入したい本のリストを作成し、事前に本学の蔵書も調べていて、とても用意周到です。当日も、真剣に悩みながら、でも楽しそうに選ぶ姿は、なかなかほほえましいものがあります。学生の選ぶ図書は、教員や図書館員の視点では選ばないものが多く、学生ならではの視点に驚かされたり、考えさせられたり、こちらも参考になります。

選書後は POP の作成をしています。図書の納品が毎回、試験やレポート提出の忙しい時期と重なってしまい、学生は大変な様子ですが、それでも図書の内容を的確に表現した、個性あふれる POP を作成してくれます。作成した POP は、新着図書コーナーへ図書と共に展示し、多くの利用者を楽しませています。

年々参加者が増えてはいるものの、学生全体からみると、まだまだ少ないので、より多くの学生さんに参加していただき、図書を選ぶ楽しさと共に、選んだ図書が貸出しされていく喜びを味わっていただきたいと願っています。

今年度からは、POP の掲示だけでなく、選んだ図書を使った読書会やビブリオバトルも計画しています。ブックハンティングをきっかけに、学びの裾野が広がっていくことを期待してやみません。

(就実大学・就実短期大学図書館 黒瀬知子)

訃報

渡邊 節夫 氏(協会理事・総社市図書館長)
7月24日御永眠 享年 58 歳
安らかに御永眠されますよう
お祈り申し上げます。

倉敷市立図書館 こどもの読書週間の取組

倉敷市立図書館では平成13年に「子ども読書の日」が制定されたことを受けて翌14年より「子ども読書の日記念」と銘打って4月23日前後にスペシャルおはなし会を行っています。毎年、各館がそれぞれ趣向を凝らした会を企画しますが、今年、中央図書館では絵本とギターと歌による「絵本ライブ」を行いました。

子どもたちもマラカスや鈴を持ち、参加者全員で楽器を鳴らしたり身体を揺らしたりして、『ねこのピートはじめてのがっこう』や『ペンぎんたいそう』等の絵本を楽しみました。「絵本ライブ」は好評で、8月の「図書館子ども夏祭り」でも行いました。

また、平成27年4月から「こども読書通帳」の配布を行っています。こちらは手作りで、29年3月までに約9,000部配布しました。ホームページからもダウンロードできるようになっています。

これからも、たくさん子どもたちに、図書館が楽しい所だということをPRしていきたいと思っています。
(倉敷市立中央図書館 奥田鈴美)



[こども読書通帳]



こどもの

備前市立図書館 こどもの読書週間「おたのしみクジとおたのしみ会」

備前市立図書館では、こどもの読書週間に合わせ、本を8冊借りるとクジが引ける「おたのしみクジ」や遊びや工作などを行う「おたのしみ会」を毎年開催しています。

「おたのしみクジ」は、備前市内の3館(本館・日生分館・吉永分館)のどこへ行っても楽しめるように、それぞれの館が違ったクジを準備しています。今回、本館は5等までの三角クジを、吉永分館は2種類のスタンプを押した三角クジを用意しました。日生分館では職員が作製した「ダンボールガチャガチャ」を回してもらいました。

「おたのしみ会」は5月13日(土)に開催しました。昨年度から市立図書館司書と学校図書館司書の連携を深めるため、ボランティアとして学校図書館司書に参加してもらっています。今回は、手遊び、大型絵本の読み聞かせ、パネルシアターや工作「紙コップ風鈴」などを行いました。特に手遊びと工作は参加した子どもも大人も大盛り上がりで、楽しい時間を過ごすことができました。図書館をより身近に感じていただける機会となるように、今後も様々な企画を考えていきたいと思っています。



[ダンボールガチャガチャ]

(備前市立図書館 福本浩子)

真庭市立勝山図書館 こどもの読書週間行事

現在の真庭市立勝山図書館は今年度で閉館になり、来年夏頃に真庭市立中央図書館として開館予定です。そのため、少しでも現在の勝山図書館の思い出作りになれば…という思いもあり、今回こどもの読書週間行事として「ぬいぐるみおとまりかい」を企画し、5月26日に開催しました。

ぬいぐるみたちが図書館で絵本を読んだり、館内を探検したりしている様子を写真に撮り、次の日のお迎えの時に泊まり会の様子の写真をプレゼントしました。小さな子どもたちの多くはぬいぐるみが夜に図書館で本を読んで過ごしたということを信じている様子で、ぬいぐるみが読んだ本を紹介すると、ほとんどの参加者の方にその本を借りて帰っていただくことができました。

真庭市では初めての行事だったのですが、予想以上に多くの方に参加していただき、この行事を通して、子どもたちが本に興味を持ってくれたことは大変喜ばしいことだと思います。次回開催の要望の声もいただき、これからも子どもたちが本に興味を持って、図書館に足を運んでくれるような行事を行っていきたいと思います。



[おとまりかいの様子]

(真庭市立勝山図書館 中山智那実)

読書週間行事

和気町立図書館

企画展示「くらべてみよう!! えいごのえほん・にほんごのえほん」 「世代を越えて永く読み継がれている絵本」

今年度から町内の小・中学校が文科省の「教育課題特例校(英語特区)」に認定され、和気町は、英語教育を中心に「教育のまちづくり」に力を入れています。そこで図書館でも、英語に親しんでいただこうと企画しました。

当館が所蔵している英語でかかれた絵本の中から、日本語版でも出版されているものを2冊セットにして展示しました。ふだんは別々に配架している絵本ですが、集めてみると20組ほど集まりました。企画側としては、英語と日本語の絵本を一緒に借り、比較しながら楽しんでいただければと考えていましたが、実際には、英語版か日本語版のどちらかを借りられる方が大半でした。

もう一つの企画展示は「世代を越えて永く読み継がれている絵本」です。祖父母がわが子に、さらにその本を孫にもと、物語の世界・喜びを共有できる幸せを多くの人に味わってほしいと思います。

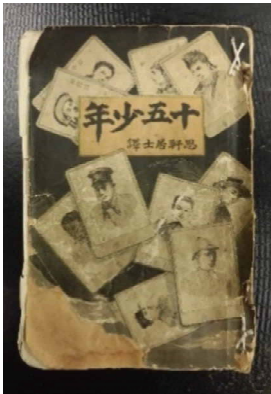
幼い頃に読んでもらった絵本をいつでも手に取り、読むことができるのが図書館の良いところです。「こどもの読書週間」ですが、大人が自分の子ども時代に思いを馳せ、子どもにとっても新しい本との出会いになるきっかけになればと願っています。



[2冊セットの絵本]

(和気町立図書館 三宅深雪)

笠岡市立図書館
— 図書館のお宝紹介 (第1回) —



『十五少年』ジュウ
ルス・ヴェルヌ／著、森
田思軒／訳 (博文館)

「図書館のお宝本を紹介してほしい」と言われ、真っ先に思い浮かんだのが今回紹介する「十五少年」です。古今東西、さまざまな「十五少年漂流記」が出版されていますが、笠岡市立図書館が所蔵するのは、初版本。121年前の1896年に出版された資料です。

なぜこの本が笠岡市立図書館にあるのかというと、「十五少年」を日本語に初めて翻訳した森田思軒という人物が笠岡市出身だからです。図書館内には、森田思軒顕彰コーナーが設けられ、この本も展示されています。

現在までにさまざまな翻訳本が出版されていて、幼年版の文学全集などで読まれた方も

多いと思います。今回、子どもの頃に読んだことがある方にも、森田思軒訳の「十五少年」をぜひ一度読んでみることをおすすめします。前述したように、この資料は貴重なので、笠岡市立図書館ではケースに展示してあります。では思軒訳の「十五少年」はもう読めないのかというと、国立国会図書館のデジタルコレクションでこの本の全文を読むことができます。また、『明治文学全集 95 明治少年文学集』(筑摩書房)にも思軒訳の「十五少年」が入っているの



〔顕彰コーナーの展示一部
(肖像画や原稿、書簡など)〕

で、こちらでも読むことができます。

「明治時代の翻訳物が面白いの？そもそも読めるの？」とお思いかもしれませんが、児童向けの読み物なのでルビがふってあり、意外とすらすら読めますし、なにより面白い！「思軒調」と呼ばれる格調高い翻訳文なので、テンポがよく勢

いのある文章なのでどんどん読み進めていくことができます。また、少年たちの名前がブリアン=武安、ゴルドン=呉敦、ドノバン=杜番と変換されていたり、描写や言い回しが「こうくるか！」という翻訳だったり。大人になった分、細かいところも楽しめる作品です。

2年前には椎名誠さんや高樓方子さんが書いた「十五少年漂流記」が出版されました。思軒が翻訳してから121年。現在も新しい訳で出版され、まだまだ現役で子どもたちに読まれている名作です。その原点となった本、これはまぎれもない笠岡市立図書館の「お宝本」です。

森田思軒や「十五少年」に興味があれば、ぜひ笠岡市

立図書館へお越しください。今回紹介したお宝本や「十五少年」訳稿(断片ですが)、小学生たちに「イケメン！」と評された思軒の肖像画とともにお待ちしています。

(笠岡市立図書館 原田恭江)



『十五少年』ジュウ
ルス・ヴェルヌ／著、
森田思軒／訳 (博文館)
第8版 (1901年)〕



〔児童書、一般書、英語版などの
さまざまな「十五少年」〕

大学図書館の電子書籍

川崎医療福祉大学附属図書館では、マルチメディア学習環境を整備するための、電子媒体資料の積極的収集の方策として、2014年10月より学術機関向けの和書の電子書籍を購入することにしました。以前にもレファレンスタイプの電子書籍等、洋書の電子書籍は数タイトル購入していましたが、和書の電子書籍の購入も開始しました。

当館が購入している Maruzen eBook Library は、タイトル毎の買い切りで、プラットフォーム使用料、年間維持費は不要です。機関の IP アドレスで認証し、大学内のパソコンからのみ閲覧が可能です。

電子書籍を利用するには、図書館ホームページの OPAC (所蔵検索) から利用する方法、eBook 一覧から利用する方法、直接 Maruzen eBook Library のプラットフォームから利用する方法があります。また、アクセス数に制限があるので、閲覧後は必ずログアウトしなければ

なりません。電子書籍は閲覧だけでなく、印刷、ダウンロード、全文検索も可能です。ダウンロードは、1回の閲覧につき60ページまでという制限があります。これら電子書籍の利用方法は、入学時に開催している全学一斉の新入生図書館オリエンテーションで、図書の検索方法とともに案内しています。

当大学には医療福祉系の学科が3学部15学科あり、臨床・臨地実習が必要な学科では、一定の期間大学から離れて勉学に勤しむこととなります。学科によっては、教員から予め実習前にタイトルを指定して学習しておくよう指導があります。教員から指定されたタイトルは図書も所蔵していますが、電子書籍も併用して購入しています。学生は利用しやすい形態を選択し、図書は貸出または複写、電子書籍は印刷またはダウンロードして実習に備えます。

また、電子書籍の閲覧は学内限定ですが、予め学内のパソコンから、大学発行のメールアドレスを利用して設定を行うことにより、リモートアクセスで学外から閲覧することも可能です。遠くに実習に出ている学生には、便利な機能です。専門書の他にも検定問題集や旅行のガイドブックの電子書籍も購入しており、よく利用されています。

和書の電子書籍は、図書と同時発行ではなく遅れて電子書籍化される点、以前よりは多くなりましたが新刊が少ない点、価格が高額な点など課題もありますが、図書館の狭隘化対策には効果的だと考えています。

購入開始から約3年が過ぎ、コンテンツは550タイトルを超えました。電子書籍より図書を好む学生が多いのが実情ですが、教員とも今まで以上に連携し、図書と併用した電子書籍の有効な利用方法を考え、これからも館員一同利用者サービスの向上に努めていきたいと思っています。

(川崎医療福祉大学附属図書館 細川芳美)



[電子書籍画面]

県図協セミナー（第1回）に参加して

「電子図書館の現状とこれから」

期日：平成29年6月5日（月）

講師：湯浅俊彦氏（立命館大学文学部教授）

電子書籍の普及が進む中、ICT（Information and Communication Technology）を使ったサービスがどのように利用者の利便性を向上させるかを中心に、その現状と課題についてお話していただきました。

まず、公共図書館の個人貸出冊数は近年、増加傾向にあるのに対し、書籍の販売冊数は減少傾向であり、



【県図協セミナーの様子】

出版業界は公共図書館向け電子書籍ビジネスを考える時期にきていると指摘されました。

続いて、ICTを使ったサービスの具体的な事例を紹介していただきました。

障がい者サービスでは、兵庫県三田^{さんだ}市立図書館が視覚障がい者のために音声読み上げ機能を使った電子書籍の貸出サービスを展開していて、利用者が読みたい本を音声で検索できるため好評とのこと。今後はタブレットやスマートフォン向けの研究開発が予定されているそうです。

多文化サービスの面では、立命館大学のPress Reader という名称で、電子モニターによって100か国・60言語・2000タイトルの海外新聞を利用者に提供、自動翻訳機能によってその場で各国語に翻訳され最新のニュースが読めるそうです。自国語で情報が入手できるのは、日本に住む外国の人にとっては大きな魅力でしょう。

児童サービスでは、デジタル絵本のことが報告されました。今年3月24日に大阪府立中央図書館で開かれた電子絵本製作のワークショップでは、Book Creator というアプリを使って電子

絵本を参加者が作成し、出来上がった絵本を使っておはなし会を行い、大変好評だったそうです。

今後、ますます電子書籍が普及していくことが予想されますが、居住地や言語、身体的な障がいなどで図書館の利用が困難な人々が図書館を利用しやすくなる有効なツールとして、電子図書館の重要性が高まるを感じつつ、帰途につきました。（岡山市立中央図書館 廣島保生）

事務局から

■理事会・定期総会

平成29年度理事会を5月19日に、定期総会を6月5日に開催しました。当日資料および議事録は協会ホームページで公開しています。

【平成29年度役員（敬称・役職略）】

| | | |
|-----|-----------------------|-------|
| 会 長 | （施）岡山県立図書館 | 狩屋 幸司 |
| 副会長 | （施）岡山市立中央図書館 | 宮本 嘉彦 |
| 〃 | （施）岡山大学附属図書館 | 今津 勝紀 |
| 理 事 | （施）倉敷市立中央図書館 | 吉田 守 |
| 〃 | （施）総社市図書館 | 渡邊 節夫 |
| | 8月1日より | 横田 優子 |
| 〃 | （施）山陽学園大学・山陽学園短期大学図書館 | 古川 徹 |
| 〃 | （施）金光図書館 | 金光 英子 |
| 〃 | （個）学校司書 | 西村 百代 |
| 〃 | （個）青年図書館員研修会 | 佐藤 賢二 |
| 〃 | （個）JLA 代議員 | 菱川 廣光 |
| 監 事 | （施）津山市立図書館 | 小川 健司 |
| 〃 | （施）早島町立図書館 | 坂本満理枝 |
| 参 与 | 岡山県教育庁生涯学習課長 | 石本康一郎 |
| | 〈※（施）施設会員、（個）個人会員の略〉 | |

■県図協セミナー（第2回）開催のお知らせ

岡山県立図書館で10月16日（月）に開催します。テーマは「図書館最先端 若手図書館職員が語る図書館の現在×未来」です。定員 80名、申込期限は10月9日（月）です。

平成29年9月30日発行

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 狩屋 幸司

TEL：086-224-1286